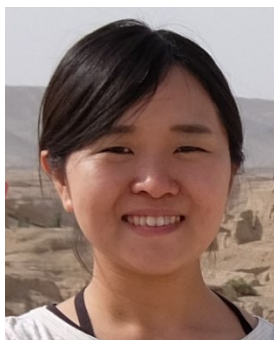


橋本 加代さん (山口県山口市出身)
2016 年度 1 次隊 青年海外協力隊
派遣国：中国 職種：日本語教育
2017 年 10 月 29 日 (日) 中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

外国語学ぶ大切さ 痛感

私の任地(遼寧省鉄嶺市)は、1932～45 年に「満州国」だった地域にある。日本のメディアで中国の反日デモなどが取り上げられるのを見て、当初、ここで活動することに少し不安を感じていた。日本語教師という仕事柄、日本国内でも中国人と話したことは何度もあったが、彼らは自分の意志で日本語を学習していたので、そのような親日的な人は中国ではごく少数なのだと思っていた。



日本語の授業風景。夜の自習も教室でするため、机の周りは教科書であふれている

しかし、実際に来て町の人と話してみると、すぐにその考えは覆った。ほとんどの人は、宮崎駿氏のアニメが大好きだとか、親戚が日本に住んでいるとか、日本の車は性能がいいという話をしてくれ、政治や戦争の話振ってくるのは、ニュースに敏感なタクシースの運転手くらいであった。

皆さんは、中国人と話したことがあるだろうか。もしあるとすれば、それは自分か相手のどちらか(もしくは双方)が、外国語を学んだからこそ成り立つ貴重な交流の瞬間である。反日感情を持っているのは少数であるというのもまた、私が中国語を学び始めたからこそ知ることができた事実であり、改めて外国語学習の重要性を痛感した。

本校では、日本語と英語は選択制で、中学 1 年次に日本語を選んだ生徒は 6 年間日本語を勉強し、大学受験でも日本語科目の試験がある。大学受験に向けた勉強は生徒にとって楽しいことばかりではないが、日本語を通して、自分の目で異文化を捉える力を身に付けてほしいと願っている。